

『ブラジルにおける日本移民研究の回顧と展望』

森 幸一 (USP)
kmori@usp.br

1. 目的

今日の大阪大学GCOEプログラムにおけるセミナーはこれまでブラジルに移民（移住）した日本人移民および日系人を対象に主に日本人研究者（人文・社会科学領域）がブラジルで実施してきた調査研究の歴史を回顧し、いくつかの展望（方向性）を提示することを目的とする。

これまで、ブラジルにおける日本移民（日系人・社会）研究は米国での日系研究に比較すれば少ないものの、南米諸国の日本移民研究に比較すればかなりの蓄積があり、これまで社会学、人類学、都市工学・建築学、医学・保健学、言語学、農業経済学など様々な学問領域からの調査研究が実施されてきた。本報告では、この一世紀の間に実施されてきたブラジル日本移民研究、特に人文・社会科学系領域（特に社会学・人類学）における、日本人研究者による研究成果を鳥瞰的に回顧し、その特徴のいくつかを提示するとともに、今後の研究の展望への私見をいくつか述べてみたいと考える。

（註①すべての成果を網羅することは不可能であり、代表的なものに限定した。②日本で実施された日系ブラジル人研究には触れない）

2. 報告の内容

- ① ブラジルへの日本人移民の概観
- ② ブラジル日本移民研究の流れと主要な特徴
大雑把な時代区分に沿って
1940年代以前
1940年代から50年代まで
1960年代から1970年代まで
1980年代から現在まで
- ③ まとめと今後の展望

3. ブラジルへの日本人移民の概観—いくつかの統計データ—

図表 1 時代区分別ブラジル向け日本人移民数

時代区分	入国者数	比率
第1期 (1908～1923年)	32,266	13.3%
第2期 (1924～1941年)	156,349	64.6%
第3期 (1942～1951年)	151	0.1%
第4期 (1952～1963年)	53,405	22.1%
合計 (1908～1963年)	242,171	100%

図表 2 最盛期における対ブラジル日本人移住 (1923～1934年)

年	移民数	全外国移民入国者数に対する割合	備考
1923	895	1.1%	第1次排日運動
1924	2,673	2.8%	北米での日本移民締め出し
1925	6,330	7.7%	
1926	8,407	7.1%	
1927	9,084	9.3%	
1928	11,169	14.3%	
1929	16,648	17.3%	世界恐慌
1930	14,076	22.5%	
1931	5,632	20.5%	(世界恐慌の影響) 日中戦争の開始
1932	11,678	37.1%	第2次排日運動開始
1933	24,494	53.2%	
1934	21,930	47.6%	移民制限法 (排日法) 通過

(出典) 前山隆『移民の日本回帰運動』83頁

図表 3 1958年当時の日系人口

	移民	ブラジル生まれ	市街地	農村	合計
ブラジル	138,637 (32.2%)	291,332 (67.8%)	193,207 (45.0%)	236,762 (55.0%)	430,135
サンパウロ州	104,156 (32.0%)	221,364 (68.0%)	156,570 (48.0%)	168,950 (52.0%)	325,520

図表 4 戦後における形態別日系移住者の推移 (1988年まで)

年度	農業	技術	商業、他	指名呼寄せ	計
1952-1959	16,191	251	44	14,124	30,610
1960-1969	8,309	1,365	539	8,406	18,619
1970-1979	1,564	1,377	41	628	3,610
1980-1988	356	112	16	228	722
合計	26,424	3,105	640	23,386	53,555

(出典) 国際協力事業団『海外移住統計』

図表5 戦後における形態別日系移住者の推移（1988年まで）

年度	農業	技術	商業、他	指名呼寄せ	計
1952-1959	16,191	251	44	14,124	30,610
1960-1969	8,309	1,365	539	8,406	18,619
1970-1979	1,564	1,377	41	628	3,610
1980-1988	356	112	16	228	722
合計	26,424	3,105	640	23,386	53,555

（出典）国際協力事業団『海外移住統計』

図表6 1988年当時の世代別人口構成比

世代	%
1世	12.5
2世	30.9
3世	41.3
4世	13.0
5世以下	0.3
不明	2.0
合計	100.0

図表7 1958年と1988年当時の日系家族内使用言語の比較

使用言語	1958年		1988年	
	都市部	農村部	都市部	農村部
ポルトガル語	18.7%	11.4%	66.3%	47.4%
日本語	44.9%	60.5%	6.0%	21.7%
日本語+ポルトガル語	36.4%	28.1%	22.3%	28.7%

図表8 1988年当時の地域別日系人口

地域	人口数	比率%
北部	33,000	2.7
東北部	28,000	2.3
サンパウロ市	326,000	26.5
サンパウロ大都市圏	170,000	13.8
サンパウロ州（市・都市圏を除く）	391,000	31.8
リオ・ミナス・エスピリトサント州	87,000	7.1
南部	143,000	11.6
中西部	49,000	4.0
合計	1,228,000	99.8

図表9 職業別人口構成比の比較—1958・1988—

職業	1958年	1988年
専門・技術	8.1	15.5
管理・事務	9.6	27.8
農牧畜水産	55.9	11.8
製造・加工・土木・建築	28.0	9.4
商業・販売	36.3	20.9
運輸・通信	5.0	3.4
サービス	12.1	10.2
その他	0.9	0.1

4. ブラジル日本移民研究の流れと主要な特徴

4-1. 1940年代以前

- ブラジル人社会学者・人類学者による「研究」
 - ・ 当時の国民国家における「国民観」「国家観」を反映し、黄色人種の導入を巡る可否という政治性を反映した「研究」
 - ・ *Abranqueamento/ Mulatalização* をつうじての「国民」形成と黄色人種
 - ・ 19世紀的な社会進化論／社会優生学的な立場を背景とする
 - ・ 同化と混血がキーワード
 - ・ 日本人（黄色人種）に言及した主な研究
 - －Roquette-Pinto, E. (1933) *Ensaio de Antropologia Brasileira*.
 - Vianna, Oliveira(1932) *Raça e Assimilação*.

Ramos, Arthur(1947) *INTRODUÇÃO À ANTROPOLOGIA BRASILEIRA*. Vol.II
Rio de Janeiro: Casa do Estudantes do Brasil.

“O estudo do Japonês do Brasil oferece muitos outros ângulos de estudo, principalmente no vasto capítulo da sua assimilação social e política. Neste terreno, as opiniões mais extremadas se vêm fazendo ouvir no livro, no jornal, na assembléia legislativa, nos círculos de governos. Os argumentos são, na sua maioria, de cor sentimental e política, concernentes às vantagens ou não da imigração amarela no Brasil”

- 日本政府機関（外務省・拓務省）・移民会社、日本移民知識人らに調査研究（広義の研究）
 - ・ ブラジル向け移民政策の立案、ブラジルの移民政策や社会経済状況の把握、日本人移民の動向など＝移民政策と移民の促進という目的
 - ・ 日本移民知識人による調査「研究」
 - 藤田敏郎（1912）、高岡熊雄（1925）、入江寅次（1937、1938）
 - －高岡熊雄（1925）『ブラジル移民研究』東京
 - －輪湖俊午郎（1939）『バウル管内の邦人』（38年10月から39年2月にかけて実施された調査に基づく）（表紙写真）

4-2. 1940年代から50年代＝文化変容論（同化論）的立場からの「科学」的本格的研究開始—ブラジル人／日系知識人／日本人研究者—

4-2-1. ブラジル

- ① サンパウロ社会政治学院（*Escola Livre de Sociologia e Política*）を中心とする調査研究＝Emilio Willems（40年代）Cyril Berlink(50年代)を中心
 - ・ 主な研究成果
 - Herbert baldus e Emilio Willems.(1941) “Casas e Túmulos Japoneses no Vale de Iguapé”(In) *Revista de Arquivo Municipal de São Paulo*.77. PP.121-136.
 - Tavares de Almeida, A. (1943) *Oeste Paulista: A Experiência Etnográfica e Cultural*. Rio de Janeiro. Alba. Editora.
 - Willems, Emilio. (1941)(com Herbert Baldus)“Casas e Tumulos de Japoneses no Estado de São Paulo”SP. USP.

- (1942) (Com Herbert Baldus) “Cultural Change among Japanese Immigrants in Brazil”(In)*Sociology and Social Reseach XXVI*. Pp.525-537.
- (1948) “Aspectos da Aculturação de japoneses no Estado de São Paulo”Boletim no 82.São Paulo:FFCL, Universidade de São Paulo.
- (1949) “The Japanese in Brazil”(In)*Fra Eastern Survey,XVIII*;6-8.
- (1950) “Immigrants and Their Assimilation in Brazil”(In)*Brazil, Portraits of half a Continent*, T.Lynn Smith and Alexander merchant(eds),NY.Dryden Press,pp.209-225

② 齊藤廣志の登場→ サンパウロ社会政治学院で学ぶ

(齊藤廣志に関しては 森幸一 (1991) 「移民と二世—二人の日系社会学者のライフヒストリー研究序説—」 (In) 『移住研究』 (JICA) に詳しい)



→ 齊藤廣志の略歴

- 1919年1月 宮崎県で誕生
- 1934年 15歳で両親とともにブラジルに移住、しばらく農業に従事。その後、〈エメボイ農学校〉に入学、2年間ポルトガル語と農業知識を学ぶ。
- 1945年 パウリスタ新聞 (邦字紙) 入社、半日をポルトガル語記事の翻訳に費やし、半日をサンパウロ社会政治学院に聴講生として通学
- 1946年 日本人の文化変容に関する調査を開始した Willems 教授への情報提供者となる
- 1947年、Willems と共著で「Shindo-Renmei Uma Problema de Aculturação」を *Sociologia* に発表
- 1951年 31歳でサンパウロ社会政治学院入学 (54—56年修士課程)
D.Piesson 教授から指導を受けるとともに、調査助手を務める
- 1952—1953年 UNESCO の社会的緊張の研究のために、ブラジル日本人社会で調査を行った泉靖一東大助教授の調査助手を務める。

「当時は、東大東洋文化研究所の助教授であった泉靖一氏は「ブラジル日系人社会における社会的緊張」というテーマで、カチ・マケ抗争を含め日系人の同化過程を調査すべく、1952年9月サンパウロに到着した。それ以前、尾高京子 (尾高邦雄夫人) を介し、泉氏と文通のあった私は現地での調査協力を約していた。それから6ヶ月間、私は泉氏の助手としてサンパウロ、パラナ、パライー、アマゾナス諸州で日系人集団地のフィールド調査に従事した」 (齊藤 1981 141—142 頁)

「泉さんとの出会いは一生涯の出会いだった。こんな人がいるのかと驚くほど、人間的魅力があった。このとき学者としての目標が決まった、と思った。(齊藤 1983 289 頁)

- 1953年 泉靖一との共著で『アマゾン—その風土と日本人』
“Pesquisa sobre a Aculturação dos Japoneses no Brasil”(In) *Sociologia XV*(3)

pp.195-209.を發表。

- 1955年 日本外務省委託調査「日本人移民実態調査」のために、再度ブラジルに訪れた泉靖一とそのグループ＝大野盛雄（人文地理学）、塚本哲人（社会学）、島澄（社会学）、蒲生正男（社会人類学）に、サンパウロ大学学生であった宮崎信江とともに参加。南マットグロッソ州とバイア州の日本人植民地の調査及びパラナ州のポーランド人植民地（コンテンダ）の調査に従事。
- 1957年 泉の推薦により神戸大学に助教授として招聘される。移民母村の研究を、蒲生、島の協力を得て実施。
- 1959年 ブラジル帰国。サンパウロ社会政治学院教授となる
- 1960年 『ブラジルの日本人・移動と定着に関する研究』で経済学博士号取得
- 1969年 サンパウロ大学芸術コミュニケーション学部に移動
- 1983年 直腸ガンのため64歳で逝去

→ 齊藤の主要業績（泉編『移民』掲載は除く）

- (1947) 「同化の諸様相」 (In) 土曜会編『時代』第4巻
Emilio Willems e Hiroshi Saito. (1947) "Shindo-Renmei: Um Problema de Aculturação"(In)*Sociologia*,9:2,PP.132-152.
- (1953) 『アマゾン—その風土と日本人』（泉との共著）京都 古今書院
"Pesquisa sobre a Aculturação dos Japoneses no Brasil"(In) *Sociologia XV*(3) pp.195-209
- (1956) *O Cooperativismo na Região de Cotia: Estudos de Transplantação Cultural*. São Paulo: Escola de Sociologia e Política de S. Paulo.
- 60年代—
- (1960) 『ブラジルの日本人』東京、丸善。
- (1961) *O Japonês no Brasil: Estudo de Mobilidade e Fixação*. São Paulo. Editora Sociologia e Política.
- (1963) "A Aculturação de Japoneses no Brasil e Peru"(In)*Revista do Museu Paulista*. Nova Série.14.pp.269-76.
- (1976) 「ブラジルに於ける日本人の同化について」 (In) 『移住研究』（JICA）12号、東京 15—20頁。
- (1977) 「ブラジルの日系人—特に社会への適応について—」 (In) 『ユネスコ』12、福岡、20—28頁
- (1978) 『外国人になった日本人』東京 サイマル出版
- (1981) 『改訂版 新しいブラジル』東京 サイマル出版
- (1983) 『異文化の中の50年』東京 サイマル出版

4-2-2. 日本人研究者

① 泉靖一グループ



→ 泉靖一…1952年にユネスコ「社会的緊張の研究」の一環として、ブラジル日本移民研究に着手（1952—53、55—56、58、60年）

→ 文化変容論（同化論）、コミュニティ研究

- 参加研究者 大野盛雄、蒲生正男、塚本哲人、島澄（日本から）
齊藤廣志・宮崎信江（ブラジル側から）＝後に日本へ
留学し博士号（齊藤－神戸大、宮崎－東大）を取得
- サンパウロ、パラナ、パラナ、アマゾナス、バイア各州で調査実施
- 研究成果 ① 1956年サンパウロ政治社会学院において「I Painei
Nipo－Brasileiro」を（1）ブラジルの日本人コミュニ
ティの研究、（2）日本人移民の同化研究、をテ
ーマに実施（写真）←初の学术交流（齊藤による組
織化）
- ② 1957年『移民－ブラジル移民の実態調査－』（古今
書院）の発行（写真）

【目次】

- 泉靖一 「ブラジルの日系コロニヤ」
- 大野盛雄・宮崎信江「小商品生産農家の成立過程－ノロエステ線ピラ
ッキの事例」
- 塚本哲人 「日系コロニヤ集団地の形態－北パラナー、アサイの事例
－」
- 大野盛雄・宮崎信江「大都市周辺農家の成立－サンパウロ市近郊スザ
ノの事例－」
- 塚本哲人「開拓前線の日系コロニヤ－北パラナー、サンタ・イザベ
ル・ド・イバイの事例－」
- 島澄 「地方小都市の日系コロニヤ－ソロカバナ線アルヴァレスマッ
シヤードの事例－」
- 蒲生正男「アマゾニアにおける日系コロニヤの同化過程－トメ・ア
スウ植民地－」
- 島澄 「移住船の調査」
- 齊藤廣志「戦後移民の定着と同化－ドウラードス及びウーナ植民地の
事例－」
- 齊藤廣志「ポーランド移民の部落－パラナー州コンテンダの事例－」

② 多田文男 －アマゾン地域の日本人移民研究。

→多田編（1957）『アマゾンの自然と社会』東京 東大出版会。

③ 西川大二郎（法政大学）－「国際移住研究会」会員 専門；人文地理学

→ 1959年海外協会連合会嘱託として、戦後ブラジル日本移民の社会
活動調査のために渡航。その後、サンパウロ社会政治学院客員研究員、外
務省嘱託などとして63年まで滞在、調査研究に従事。

→ 戦後の集団的農業開拓移民「松原移民」の定着状況調査（1959年）
をはじめ、サンパウロ州西部の日系人独立小農家の集団地形成プロセス、
社会経済的生活に関する調査などを実施。

－西川大二郎（1960）『ドウラードスにおける日本人入植地の社会経済
的研究』国際移住研究会。

－Nishikawa Daijiro. (1960) “Aspectos Sócio-Econômicos da Produção e Circulação de
Produtos Agrícolas de Mato Grosso”(In) *Sociologia*,22:2,pp.129-154.

－（2006）『ある日本人農業移民の日記が語る－ブラジルにおける日本農業移民像
－』サンパウロ、サンパウロ人文科学研究所（西川が雑誌に発表した一連の *Presidente
Prudente* 市郊外に位置する「植民地」及びY家の日記を基にした記述考察論文をまとめ
たもの）

④ Fujii Yukio (1958) *The Acculturation of the Japanese Immigrant in Brazil*. Gainesville. University of Florida, M.A. Thesis.

4-2-3. 移民知識人による調査研究

- ① 1946年 日本人移民知識人による「土曜会」の結成
 → 河合武夫（故人）、半田知雄（故人）、鈴木悌一（故人）、アンドウ・ゼンパチ（故人）、脇坂勝則、斉藤廣志（故人）など
 → 目的—日系社会の啓蒙活動
 → 機関誌「時代（ERA）」（1953年3月 16号まで発刊）
 → 戦後、サンパウロ人文科学研究会（サンパウロ人文科学研究所の前身）へと発展的解消
- ② 1958年 日系社会実態調査＝最初の日系人センサス
 → 鈴木悌一を中心とする実態調査委員会
 → 日系社会の構造をフルに活かした悉皆調査（方法論）
 → 成果 *The Japanese in Brazil*(1964-記述篇と統計篇)（東大出版会）からの発行（写真）

4-3. 60年代から70年代＝研究テーマ／対象地域の多様化、パラダイムの転換、米国人研究者の参入、サンパウロ人文科学研究所における調査研究

4-3-1. 主な研究者・研究機関

ブラジル人研究者	日本人及び日系人研究者	米国人研究者
●USP (ELSP) Egon Schaden Ruth Leite Cardoso Vicente Unzer de Almeida Manuel Diegues Junior Arlinda Rocha Nogueira Orlando Sampaio Silva Mario Gonçalves 等 日本人留学生＝三田千代子 （後に USP でバストス移住地のモノグラフ的研究で博士号取得） ●Museu Nacional(Rio) Vieira, Francisca Izabel Schurig ●UNESP Sumi Butsugan Leila M. Albuquerque など	● 日本移民研究者—斉藤廣志 ● ブラジル土着型日本人研究者—前山隆 ● サンパウロ人文科学研究所の創設（1965） —日系知識人による日系社会調査研究の組織化 —斉藤、前山所属（中核的役割を果たす） —日本人/ブラジル人研究者などの足場として機能 —68、78年シンポジウム（USPとの共催） —88年日系人口調査（JICA委託）（森幸一：コーディネータ）	●Texas-Cornell-São Paulo プロジェクト(1965-1967)—日系社会総合研究プロジェクト John.B. Cornell Robert.J. Smith 斉藤廣志 →日本人フルタイム調査員として前山参加 →若手日系人研究者参加 Iyutaka Sugiyama, Amelia Shimidu, Jandyra Fujimura ガ参加 ● Philip Staniford (London School of Economics)

（註 ブラジル人研究者の場合、サンパウロ州、リオデジャネイロ州以外にも存在すると思われるがここでは、この二つの州に限定した）

4-3-1-1. ブラジル人研究者

- ① Egon Schaden を中心とするサンパウロ大学グループ
 - Vicente Unzer de Almeida, Ruth Leite Corrêa Leite Cardoso, Manuel Diégues Junior など
 - ・ 主な研究業績
 - Schaden, Egon. (1956) “Aculturação de Alemães e Japoneses no Brasil”(In) *Revista de Antropologia*, 4-1.pp.41-46.
 - Cardoso,Ruth Leite Corrêa.(1959) “O Papel das Associações Juvenis na Aculturação de Japoneses”(In)*Revista de Antropologia*,7:1/2.pp.101-122.
 - Diegues, Jr. Manuel.(1964) *Imigração, Urbanização e Industrialização*. RJ.
 - Nogueira,Arlinda Rocha.(1971) *Considerações Gerais sobre a Imigração Japonesa para o Estado de São Paulo entre 1908 e 1922*. Palestra proferida a 27/Nov/1971 no Centro de Estudos Nipo-Brasileiros.
- ② Museu Nacional(RJ)→USP
 - Vieira, Francisca Isabel Schurig.(1967) *A Absorção do Japoneses em Marília*. São Paulo:Universidade de São Paulo, Tese de doutoramento, ed.mimeogr. (1973 *O Japoneses na frente de Expansão Paulista*.Pioneira/EDUSP として刊行)
 - (1967) “Adaptação e Transformação no Sistema de Casamento entre Issei e Nissei”(In) *I Colóquio Brasil-Japão*,ed. Euripedes Simões de Paula, São Paulo: Universidade de São Paulo.pp.187-200.
- ③ UNESP (SP)
 - Butsugan, Sumi.,(1973) *Os Nisseis e a busca de sua integração na sociedade brasileira*. Presidente Prudente(edição mimeogr)
 - (1980) “Participação social e tendência de casamentos interétnicos”(In) *A PRESENÇA JAPONESA NO BRASIL*,(ed) Hiroshi Saito. São Paulo, (eds) T.A.Queiros/EDUSP.pp.101-112.

4-3-1-2. 欧米人研究者

- ① Texas-Cornell-São Paulo プロジェクトのいくつかの成果
 - Smith,Robert J., John B. Cornell, Hiroshi Saito and Takashi Maeyama.(1967) *The Japanese and Their Descendants in Brazil. An Annotated Bibliography*.São Paulo: Centro de Estudos Nipo-Brasileiros.
 - Cornell, John B., Sugiyama Iutaka, and Robert J.Smith.(1968)“Nisei Biculturalism in Southern Brazil” Austin. The University of Texas, ed.mimeogr.
- ② Staniford, Philip. (英国)
 - (1967) *Political Organization of a Japanese Community in Northern Brazil*.Tese de Doutoramento apresentada a London School of Economics.
 - (1970) *Nihon ni Itemo Shoga nai*. Trabalho apresentado ao 69th Annual Meeting of American Anthropological Association, San Diego, Calif.

4-3-1-3. 日系知識人及び日本人研究者

- ①サンパウロ人文科学研究所



研究レポート

研究室

アンドウ・ゼンパチ

- (1959) 『コチア産業組合 30年の歩み』 サンパウロ、コチア産業組合
- (1967) 「日本移民の社会史的研究」 (In) 研究レポート 2. pp.3-109.
サンパウロ人文科学研究所

半田知雄

- (1966) 『今なお旅路にあり ある移民の随想』 サンパウロ、サンパウロ人文科学研究所
- (1970) 『移民の生活の歴史 ブラジル日系人の歩んだ道』 サンパウロ、サンパウロ人文科学研究所



半田知雄



www.cenb.org.br

② 前山隆の登場

(前山はブラジルのエスニック文芸誌『国境地帯』に自伝的回想を執筆中)

「私のブラジル日系人の調査はほとんど土着的スタイルで、ほぼその正規のメンバーといってもいい状況下で行われた。・・・日系人の多く居住するブラジル南東部でのフルタイム現地調査は、1965-67年、1971年-73年の満4カ年にわたって実施された。この4年をも含めて、私は1961-1982年の間に満12年間をブラジルで生活し、かつ調査も行ってた」

「私が・・・試みるのは日系ブラジル人におけるエスニック・アイデンティティの吟味であり、ひいては「民族」「ネーション」「エスニシティ」「国家」といった概念の再考ということであって、婦人問題でも、移民問題でもない」

(前山(1984)より抜粋)

・ 前山隆略歴

- 1933年 札幌に生まれる
- 1960年 静岡大学文理学部哲学専攻科卒業
- 1961-62年 サンパウロ大学人類学留学生
- 1965-67年 フルタイム調査員として Texas-Cornell-São Paulo プロジェクトに参加
- 1967年 サンパウロ社会政治学院社会学科修士
- 1975年 コーネル大学人類学博士
サンパウロ州立大学講師、助教授(文化人類学)
- 1977年 信州大学人文学部助教授(比較文化論)(日本帰国)
- 1980年 筑波大学歴史人類系助教授
- 1985年 静岡大学人文学部教授
- 1997年 阪南大学国際コミュニケーション学部教授
- Levi-Strauss の『悲しき熱帯』に触発されブラジル研究を決意、サンパウロ大学給費留学生として渡航。
- Umbanda (アフロ系カルト)の研究に従事するも、後に日系エスニシティ研究へ転換(Texas-Cornell-São Paulo プロジェクトにフルタイム調査員として参加)

・ エスニシティ論

エスニシティは人の知覚と認識、世界解釈と人間分類の尺度であり、その根幹には、文化的か身体的かを問わず、ある属性(単数または複数)を出自をとおして得たと自ら見、または他の者を見るという原理がらう。それは ascription であって、achievement ではない。アイデンティティは他との関連において自己を分類・定義する認識プロセスであり、他の者を外部から分類するレッテル貼りの「カテゴリー」とは同じ現象の表裏を構成しているが、分析上は厳密に区別する必要がある。エスニシティにしても、アイデンティティにしても、ともに人間分類の認識上の現象であるが、知覚・認識・判断は、現象学的研究の成果が教えてくれるように、本来価値観、志向性を捨象しては考察不能のものであり、見ることも、認識することも、人間を分類することもすべては倫理性をもった行為、すなわち Moral Conduct なのであるから、この認識プロセスは同時に本来政治プロセスでもある。

60年代から70年代初頭の主要成果

- (1967) "O Imigrante e A Religião: Estudo de Uma Seita Religiosa Japonesa em São Paulo" São Paulo: Escola de Sociologia e Política (Tese de Mestrado)
- (1970) "Religion, Kinship and The Middle Classes of the Japanese in Urban Brazil" Ithaca, NY: Cornell University, Department of Anthropology, ed. mimeogra.

- (1972) “Ancestor, Emperor, and Immigrant: Religion and Group Identification of the Japanese in Rural Brazil(1908-1950)” (In) *Journal of Inter-American Studies and World Affairs*. 14:2, pp.151-182.
- (1973) *Assimilação e Integração dos Japoneses no Brasil* (齊藤廣志との共編著) サンパウロ EDUSP
- (1975) *Familialization of the Unfamiliar World*. コーネル大学ラテンアメリカ研究プログラムに提出された博士論文

80年代以降の主要成果

- (1981) 『非相続者の精神史』 東京 御茶ノ水書房
- (1982) 『移民の日本回帰運動』 東京 NHK ブックス
- (1984) 『現代日本の先祖崇拜』 (訳書) 東京 御茶ノ水書房
『市民 13660号』 (訳書) 東京 御茶ノ水書房
- (1986) 『ハワイの辛抱人』 東京 御茶ノ水書房
- (1996) 『ドナ・マルガリーダ・渡辺』 東京 御茶ノ水書房
『エスニシティとブラジル日系人』 東京 御茶ノ水書房
- (1997) 『異邦に「日本」を祀る』 東京 御茶ノ水書房
- (2001) 『異文化接触とアイデンティティ ブラジル社会と日系人』 東京 御茶ノ水書房

* 前山隆の、このほかの論考に関してはハンドアウトの最後に掲載した文献を参照のこと。

4-3-2. この時期の特徴

- (1) 研究パラダイム・研究テーマ・学問領域・対象地域の多様化
 - 文化変容論 (同化論) パラダイム → 統合論、エスニシティ論へ
 前山隆—Texas-Cornell-Sao Paulo プロジェクトでの経験から
 - 研究テーマ
 - ① 日系コミュニティ研究—Vieira, Francisca I. Schuring(Marilia/SP), Orlando S.Silva(東北伯の日系人コミュニティ), P. Staniford(Tomé-Açú)、ジャンジーラ藤村 (1970)、三田千代子 (Bastos) など
 - ② 二世クラブ、家族・婚姻、二世の社会参加、日系宗教、社会経済的上昇、ナショナリズムと日本移民、日系人アイデンティティ、勝ち負け問題、伝記的研究、農業協同組合、日系文学など
 - ③ 歴史学領域からの研究—Arlinda Rocha Nogueira など
- (2) 齊藤廣志、前山隆といった、移民、土着型研究者による長期的調査研究 → 日本人研究者とブラジル学界との橋渡し役
- (3) サンパウロ人文科学研究所に属する移民知識人を中心とする調査研究 (研究レポート)
- (4) 日本から来る研究者は相対的に少なかった (航空費を含む研究資金の問題、日本の社会学・人類学—「移民」や「移動」への関心低い)

4-4. 80年代以降現在まで—研究テーマ・対象のさらなる多様化、エスニシテイ・「伝統の創出論」・トランスナショナリズム/トランスカルチャリズム、

4-4-1. 研究テーマ・対象別主要研究者(俯瞰) (ブラジルにおいて調査実施)

時期	研究テーマ・対象	主要研究者
80年代	—日系宗教・新宗教	(日本) 中牧弘允(民博)(1986/1989)、森幸一(USP)、渡辺雅子(明治学院大)(2001)、山田政信(天理大)など
	—沖縄移民(地理学的研究)	琉球大学地理学教室(石川、米盛、中山、島袋、町田)(石川・町田1985, 1987, 1988)、島袋(1986)、島袋・米盛(1982、1989)など
	—日系大衆文化研究(カラオケ・映画)	細川周平(日文研)(1995、1999)
	—日系人の婚姻(配偶者選択行動)	小嶋茂(JICA 移住資料館)
	—日本人排日運動・国民国家と民族、アイデンティティなど	(日本) 三田千代子(前山はすでに70年代に同様の研究実施)(1978a,1978b,1988)
	—アマゾン(日本高等拓殖移民)移民	野口敬子(1990)
	—伝記研究	前山隆(静岡大)、小池洋一(アジ研)(1990)、森幸一(USP)(1991)
	—日系人の疾病	津金昌一郎(癌研)
	—コミュニティ研究	三田千代子(USP/上智)(2002)
	—言語	永田高志(関大)(1991)
	—勝ち負け問題	太田恒夫(フリー)
90年代以降 現在	—日系新宗教	松岡秀明(淑徳大)(2004)(世界救世教)、森幸一(USP)(1985)(天理教、沖縄系シヤーマニズム=ユタ研究)など
	—日系大衆・民俗文化・生活	小嶋茂(芸能)(1999)、森幸一(沖縄系芸能・民俗文化=祖先崇拜など、食文化)園田・朝倉(1997、1999)
	—日系農協	田中規子(JATAK)(1996)、山本・松本
	—日系人のイメージ	森幸一(USP)、三田千代子(上智大)(1977)
	—日系住空間・住宅	熊谷広子(宮城高専)(2000)
	—日系人の高齢化	金本伊津子、真壁次郎(1993)など
	—デカセギ現象	渡辺雅子グループ(明治学院大)(1990年-1993年)、喜多川豊宇グループ(東洋大)、梶田孝道グループ(一橋大)など多くのグループ 森幸一(1999)(1992)
	—言語・日本語教育	大阪大学21世紀COEプログラム「言語の接触と混交班」(学際的研究)(工藤真由美、山東功、中東ヤスエ、李、森)
	—日系文学	細川周平(日文研)、西成彦(立命館大)など
—沖縄系コミュニティ・文化研究	森幸一(USP)	

－日本人街	根川幸男 (UnB), 森幸一 (USP)
－日系人のアイデンティティ (ポリティックス)	山ノ内裕子 (関大) (2002, 2003, 2004)
－女性、ジェンダー研究	Mori & Inagaki(2008)

4-4-2. 調査研究の傾向性 (いくつかの特徴)

① 「移民 (日系)」研究者の増加

- 人文・社会科学領域での「人の移動」という現象への関心高まる (直接にはデカセギ現象を通じて)
- 交通手段の大衆化 (安価) など様々なファクターと関連

② 研究テーマ・対象の変化

－日系新宗教研究＝日系宗教とエスニシティ (80年代以前) ⇒日本宗教の現地化 (多国籍化)・異文化布教・日系人の適応と宗教など (80年代) ⇒ 非日系信者を対象とする改宗 (アイデンティティ) の問題 (← ブラジルの Movimento religioso Alternativo 研究のひとつのメインテーマ) やトランスナショナルな宗教実践 (ユタのトランスナショナルな成巫プロセスなど) やハイブリッドな宗教文化様式 (90年代) ⇒在日ブラジル宗教教団・グループ (Igreja Universal Reino de Deus, Umbanda/Espiritismo など) を対象とする研究 (00年代)

－日系〈社会〉研究から日系〈文化〉研究へ＝日系エスニック大衆・民俗文化の出現と隆盛←「伝統の創出論 [Invention of Tradition]」的立場
←エントロピーの語りから創造の語りへ

－デカセギ現象研究の隆盛と蓄積

デカセギ現象の要因/日系社会への影響/送り出しの構造研究など (80年代-90年代初頭) ⇒ブラジル教育制度、帰国デカセギ者の再適応、アイデンティティ、トランスナショナルなコミュニティや家族など (90年代-00年代) (日本人研究者は在日ブラジル人研究の背景に関する関心へ移行)

((ブラジル) Angelo Ishi(現武蔵大)、Eliza Sasaki(UNICAMP), Kyoko nakagawa(71-), Sylvia Dantas DeBiaggi(USP)etc.USPだけでも90年代から現在まで20以上の修士・博士論文が提出されている)

① パラダイム・パースペクティブの多様化

- 文化変容論 ⇒ +エスニシティ論 (エスニックグループ⇒個人)
- ⇒ +「伝統の創出論」+トランスエスニシティ/トランスナショナリズム/トランスカルチャリズム

- ⇒ 国民国家内でのエスニシティ・コミュニティなどの問題から複数の国民国家をまたいだトランスエスニシティ、トランスコミュニティ/ファミリーなどの問題へ
- ⇒ 集団中心からネットワーク中心へ
- ⇒ 個人 (Person) や家族の主体的な生活戦略への注視
- ⇒ 日系文化への関心 (ハイブリッドな文化様式など)

② 日系社会 (知識人) と研究者の関心の乖離

- －50年代－60年代までは関心はあまり相違しない
 - －日系知識人－「日系社会」「日系人」「同化」とは何かを問い続ける
 - －研究者＝研究テーマの多様化・研究の細分化・専門化など
- 知識人 (言説) = 研究対象

③ ブラジル学界とのつながり希薄化

- ⇒ (例外) 中牧 (民博) による組織化 (宗教・大衆文化研究領域)

5. まとめにかえて－いくつかの提案－

① 日本・ブラジル間の学術交流の不在/必要性

- ⇒言語的制約 / 発表場所/言語
- ⇒日本研究とブラジル研究に分岐
- ⇒足場としてのサンパウロ人文科学研究所の存在
- ⇒若手 (日系) ブラジル人研究者の日本での就職など

= デカセギ現象や言語接触などを巡って日本/ブラジル双方の研究者を含む双方向的国際的共同研究の可能性と必要性 (連続性をもった国際的共同研究)

② 総合的学際的研究の必要性

- ⇒いくつかの先行モデル
- －柳田利夫 (慶応大) をリーダーとする「リマの日系人」
- －大橋英寿 (東北大) をリーダーとする「ボリビアのオキナワ村」
- ⇒地域社会との関連という視点 (共通)
- ⇒前者 リマ市の日系人の学際的調査研究 (多角的研究)
- ⇒後者 学際性 (マルチ・フォーカス) + (マルチ・ローカルなフィールドワーク) = ボリビア (オキナワ移住地、サンタクルス) ・ブエノス・アイレス、サンパウロ、横浜鶴見区、沖縄

③ どのように研究成果を被調査者 (地元) へ還元するかという問題意識の不在と必要性

- ⇒大阪大学 21世紀 COE 調査プログラム
- ⇒立教大ラ米研究所とサンパウロ州バストス市との移民資料アーカイブ化 (データベース化) プロジェクト

⇒ 早稲田大学とブラジル移民史料館との移民資料データベース・アーカイブ化プロジェクト

【主要参考文献】

- 石川友紀・町田宗博（1985）「ブラジルにおける沖縄県出身移民の集団形成 サンパウロ市ビーラカロン地区の場合」『南米における沖縄県出身移民に関する地理学的研究（Ⅱ） ボリビア・ブラジル』琉球大学法文学部地理学教室：117-139
- 石川友紀・町田宗博（1987.3）「ブラジル国サンパウロ市カーザベルデ地区における沖縄県出身移民の分布と職業構成」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 30：39-113
- 石川友紀・町田宗博（1988.3）「ブラジル国サンパウロ市ビーラカロン地区における沖縄県出身移民の分布と職業構成」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 31：1-42
- 井ノ上俊介・大山慶子・田口徹也ほか（2001.8）「海外事情 ブラジルにおける日系高齢者の生活に関する調査研究」『公衆衛生』65（8）：628-633
- 入江寅次（1937）『邦人海外発展史』上、国際日本協会
- 入江寅次（1938）『邦人海外発展史』上・下、移民問題研究会
- 金本伊津子（1998）「ブラジル多文化社会における日本人の老いー「憩いの園」の老人たちー」（In）『平安女学院短期大学紀要』 No. 29.
- 金本伊津子（2007a）『老いの文化人類学 1；老いのエスニシティー多文化社会にみる日本移民の老後』書齋の窓。No.566. 有斐閣。
- 金本伊津子（2007b）『老いの文化人類学 2；高齢化する海外日系コミュニティ』書齋の窓。No.567. 有斐閣。
- 金本伊津子（2007c）『老いの文化人類学 3；老いのナラティブとエスノグラフィー アメリカ編』書齋の窓。No.568. 有斐閣。
- 金本伊津子（2007d）『老いの文化人類学 3；老いのナラティブとエスノグラフィー ブラジル編』書齋の窓。No.568. 有斐閣。
- 小池洋一（1990.1）「ブラジルにおける日系人の企業者行動 山本勝造とその経営理念」『アジア経済』31（1）：48-60
- 小嶋 茂（1999.8）「ブラジル日系社会における芸能の伝承と変容 パラナ民俗芸能祭をめぐる一考察」『イベロアメリカ研究』21（1）、上智大学イベロアメリカ研究所：69-79
- 熊谷広子（2000.1）「移住と住宅 ブラジル移民の住まいに見る“日本的なるもの”の変化」『すまいろん』53、住宅総合研究財団：50-53
- 齋藤廣志（1959.7）「移住者と共同組合『文化移植』に関する一考察」『国際経済研究』9：109-147
- 齋藤廣志（1960b）「ブラジルにおける邦人移住者の地域的移動」『国際経済研究』10：195-247
- 齋藤廣志（1960c）『移住者の移動と定着に関する研究』神戸大学経済経営研究所
- 齋藤廣志（1960d）『ブラジルの日本人』丸善
- 齋藤廣志（1978）『外国人になった日本人 ブラジル移民の生き方と変り方』サイマル出版社
- 島袋伸三（1986.3）「ブラジルにおける沖縄県出身移民の職業変遷 第二・第三次産業」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 29：29-54
- 島袋伸三・米盛徳市（1982.3）「ブラジルにおける沖縄県出身移民の職業変遷 農業を中心に」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 25：57-122
- 島袋伸三・米盛徳市（1989.3）「サンパウロ大都市圏におけるフェイラと沖縄県出身のフェイランテ」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 32：57-103
- 鈴木路子・北原隆史・長瀬小夜（1991.3）「熱帯雨林気候アマゾン地域の小児の発育と環境に関する現地調査 各移住地における日系移住者子弟の発育と現地ブラジル人に視点をおいて」『移住研究』28：1-15
- 園田恭一・朝倉隆司（1997.3）「ブラジルにおける日系人の生活と健康」『東洋大学社会学部紀要』34（3）、東洋大学社会学部：5-63

- 園田恭一・朝倉隆司（1999.3）「滞日日系ブラジル人の生活と健康」『東洋大学社会学部紀要』36（3）、東洋大学社会学部：127-154
- 田中規子（1996.3）「アマゾン熱帯地域における日系共同組合の経営危機とその要因分析 トメアス総合農業協同組合を事例として」『農経論叢』52、北海道大学大学院農学研究科：181-191
- 中牧弘允（1986）『新世界の日本宗教 日本の神々と異文明』平凡社
- 中牧弘允（1989）『日本宗教と日系宗教の研究 日本・アメリカ・ブラジル』刀水書房
- 中山 満（1982.3）「ブラジルにおける沖縄県出身移民の空間移動の地域的指向について」『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 25：1-55
- 永田高志（1991.3）「ブラジル日系人の言語生活 アサイ日系社会を例に」『移住研究』28：45-54
- 西川大二郎（1960）『ドゥラードスにおける日本人集団入植地の社会経済的研究』国際移住研究会
- 西川大二郎（1990.2）「サンパウロ州内陸フロンティアにおける農業小生産者の成立過程 プルデンテ市周辺部の『ムラ』を例にとりて」『法政大学教養部紀要』75：31-74
- 西川大二郎（1991.2）「『Y日記』から見たサンパウロ州の日系農業小生産者の二次的集団地『ミネのムラ』の社会経済的性格」『法政大学教養部紀要』79：1-21
- 野口敬子（1990.3）「上塚司日本高等拓殖学校 アマゾン開拓について」『移住研究』27：76-86
- 比嘉正範（1982）「ブラジルにおける日本人移住者の言語適応」『ラテンアメリカ研究』4、筑波大学ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織：153-162
- 藤田敏郎（1912）「伯国サンパウロ州巡回報告書」『移民調査報告』9、外務省通商局
- 藤村ジャンジーラ（1970.9）「ブラジルにおける日系村落社会の構造とその展開過程 日系農民の生活を中心として」『移住研究』7：37-51
- 細川周平（1995）『サンバの国に演歌は流れる 音楽にみる日系ブラジル移民史』（中公新書）中央公論新社
- 細川周平（1999）『シネマ屋、ブラジルに行く 日系移民の郷愁とアイデンティティ』（新潮選書）新潮社
- 松岡秀明（2004）『ブラジル人と日本宗教 世界救世教の布教と受容』弘文堂
- 真鍋次郎（1993.2）「熱想44 全ブラジル日系人老人クラブ連合会の歩み」『月刊福祉』76（2）、全国社会福祉協議会：90-91
- 前山 隆（1978.3）「適応戦略としての擬制親族 ブラジル日本移民における天理教集団の事例」『人文科学論集』12、信州大学人文学部：39-50
- 前山 隆（1979a）“A Minority Group in an Underdeveloped Nation: The Japanese Case in Brazil”, *Studies in Humanities*, 13, 信州大学人文学部：67-84
- 前山 隆（1979b）「日系人と日本文化 特に日系ブラジル文化と国家観について」『海外移住の意義を求めて ブラジル移住70周年記念シンポジウム』外務省：202-213
- 前山 隆（1981）『非相続者の精神史 或る日系ブラジル人の遍歴』御茶の水書房
- 前山 隆（1982a）「ブラジルの日系人におけるアイデンティティの変遷」『ラテンアメリカ研究』4、筑波大学ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織：180-219
- 前山 隆（1982b）『移民の日本回帰運動』日本放送出版協会
- 前山 隆（1983a）“Religion, Kinship and Middle Classes of the Japanese in Urban Brazil”, *Latin American Studies*, 5, Special Research Project on Latin America, The University of Tsukuba: 55-82
- 前山 隆（1983b）“Japanese Religions in Southern Brazil: Change and Suncrretism”, *Latin American Studies*, 6: 181-238
- 前山 隆（1984）「『文化変容』についての一民族概念 ブラジル日系人における和魂伯才論」『地域研究』2、筑波大学地域研究研究科：43-57
- 前山 隆（1984.3a）「適応の論理と心理 ブラジル日系人の母国敗戦時の変動」『歴史人類』12、筑波大学歴史人類学系：127-152
- 前山 隆（1986b）「ブラジル日系人における分裂と統合 エスニシティとアイデンティティの問題」重松伸司編『現代アジア移民』名古屋大学出版会：1-32
- 前山 隆（1986c）「日系農業とコチア産業組合」『週刊朝日百科』118、朝日新聞社：206-209
- 前山 隆（1987.11）「異文化接触と文化変動 ブラジル日系人の事例に照らして」『文化と哲学』6、静岡大学哲学会：1-27

- 前山 隆 (1996) 『エスニシティとブラジル日系人 文化人類学的研究』御茶の水書房
- 前山 隆 (1997) 『異邦に「日本」を祀る ブラジル日系人の宗教とエスニシティ』御茶の水書房
- 前山 隆 (2001.1) 「同伴移民、妻移民、子供移民 ブラジル日系女性移住体験を中心に」『阪南論集 人文・自然科学編』36 (3)、阪南大学：1-14
- 前山 隆 (2001) 『異文化接触とアイデンティティ ブラジル社会と日系人』御茶の水書房
- 前山 隆 (2003) 『個人とエスニシティの文化人類学 理論を目指しながら』(阪南大学叢書 68) 御茶の水書房
- 三田千代子 (1977) 『ブラジル日系人の対日イメージ コミュニケーションとイメージの変化』上智大学イベロアメリカ研究所
- 三田千代子 (1978a) 「ブラジルに於ける戦前日本人社会の社会制度と文化目標の矛盾 勝負抗争の社会的背景」『ラテンアメリカ論集』11/12、ラテンアメリカ政経学会：38-65
- 三田千代子 (1978b) “Shindo-Renmei: A Contradição entre a instituição social e a meta cultural dos japoneses no Brasil”, *Anais*, XII (Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros): 22-69
- 三田千代子 (1982.1) 「サンパウロ日本人共同体と経済活動」『イベロアメリカ研究』IV (1)、上智大学イベロアメリカ研究所：42-60
- 三田千代子 (1988.9) 「ナショナリズムと民族集団」『外交時報』1251：57-70
- 三田千代子 (1990.2) 「日本とブラジルを結ぶ日系人移住者の 80 年」『外交時報』1265：41-56
- 三田千代子 (2002) 「ナショナリズムとエスニシティ・グローバリゼーションとエスニシティ バストス日系人のエスニック・アイデンティティの形成と変化」柳田利夫編『ラテンアメリカの日系人 国家とエスニシティ』慶應義塾大学出版会：213-248
- 森幸一 (1985) 「ブラジルにおける天理教の展開と組織化の特質」(In) 『研究レポート IX ブラジルの日系新宗教一』サンパウロ人文科学研究所 1985 8-56 頁
- 森幸一 (1991) 「移民と二世—二人の日系社会学者のライフ・ヒストリー研究序説」(In) 『移住研究』1991 69-82 頁 国際協力事業団
- 森幸一(1992)「ブラジルからの日系人『出稼ぎ』の推移」(In) 『移住研究』1992.28号。144-163 頁、国際協力事業団。
- 森幸一 (1993) 「日系集団地にとっての「出稼ぎ」のもつ意味—3 日系集団地の出稼ぎ形態と影響を対比を通じて—」(In) 『移住研究』1993.29号。40-57 頁。国際協力事業団。
- 森幸一 (1994) 「アマゾン地域からの日系人出稼ぎ現象—トメアス—移住地の事例を通じて—」(In) 『移住研究』1993.30号。120-139 頁。国際協力事業団。
- 森幸一 (1995) 「第 2 章 ブラジルにおける日本文化の影響—食文化を通して見た日はく交流史序論—」377-419、『日本ブラジル交流史—日はく関係 100 年の回顧と展望—』日本ブラジル交流史編集委員会編、1995
- 森幸一 (1998a) 「非日系ブラジル人の日本食受容に関する一考察」(In) 上智大学イベロアメリカ研究所『イベロアメリカ研究』39巻 1998年後期 85-105
- 森幸一(1998b)「クストゥーラ (縫製業) —ミドルマン・マイノリティへの道—」『人文研』No.1 43-55 1998
- 森幸一(1998c)「〈食〉をめぐる移民史—(1)—戦前のコロノ・植民地時代」『人文研』No2.1998 48-70
- Koichi Mori(1998d)“Pocesso de Amarelamento das Tradicionais Religiões Brasileiras de Possessã-Mundo Religioso de uma Okinawana”(In) *Estudos Japoness .No.18*. USP. Pp.57-76.
- 森幸一(1999a)「〈食〉をめぐる移民史—(2)—戦前・戦後の都市における食生活—」『人文研』No.3 1999,64-102 頁
- 森幸一(1999b)「サンパウロ市の日本料理店と日本料理」No.4 1999『人文研』2-42 頁
- 森幸一 (1999c) 「サンパウロ市における沖縄系エスニック・コミュニティの生成過程—特に経済的適応プロセスとの関連において—」(In) 『人文研』No.5.
- 森幸一(2000a)「ブラジルにおける沖縄系人のアイデンティティの変遷過程—」『総合産業研究所報告書』8-4 2000 沖縄国際大学
- 森幸一(2000b)
「第11章 還流型移住としての《デカセギ》—ブラジルからの日系人デカセギの 15 年—」347-376 頁 森広正編『国際労働力移動のグローバル化—外国人定住と政策課題—』法政大学出版会 2000

- 森幸一(2000c)「創造される」民俗文化—移民への視点— 168—194頁 赤田光男・小松和彦・福田アジオ他編『講座 日本の民俗学 10 民俗研究の課題』 雄山閣 東京 2000年
- 森幸一(2000d)「サンパウロ市における日本食の受容」(In)『食の文化誌 *Vesta*』2000年夏号 味の素食の文化センター編 30—35頁。
- Koichi Mori(2001)Identity Transformations among the Okinawans and Their Descendents in Brazil”(In)Searching for Home abroad-Japanese- Brazilians and the Transnationalism.. Duke Univ. Press.2001
- 森幸一(2002a)「日系人のイメージ 《ジャポネス》 範疇に付与された意味と位置」(In) XIENPULLCJ/IEEJ(第11回ブラジル日本研究学会報告書)467—480頁 ブラジリア。2002年
- 森幸一(2002b)「第五章 ブラジルにおける沖縄系シャーマン「ユタ」の成巫過程とその呪術宗教世界—特にエスニシティとの関連において—」柳田利夫編著『ラテンアメリカの日系人—国家とエスニシティ—』慶応大学出版会 153—212頁
- Koichi Mori(2002c)“Etnicidade e Criação de uma Cultura Híbrida- O caso dos Imigrantes de Okinawa no Brasil”(In)XIII ENCONTRO NACIONAL DE PROFESSORES UNIVERSITÁRIOS DE LÍNGUA, LITERATURA E CULTURA JAPONESA.USP.página 99-110.
- 森幸一(2003a)「ブラジルの琉球芸能と主体の構築—演芸会・コンクール・パレード—」287—300頁、西成彦・原毅彦編著『複数の沖縄—ディスボラから希望へ—』2003 古今書院
- Koichi Mori(2003b)“Migrant network of people from Colônia Okinawa in Bolivia”(In)Tohoku Psychological Folia, 62. pp.48-56.
- 森幸一(2003c)「〈ブラジルのウチナンチュ〉を生きる」(In)『月刊 オルタ』 アジア太平洋資料センター(PARC)編 15—17頁
- 森幸一(2005a)「ブラジル沖縄系人の祖先崇拜の実践—彼等とブラジル・沖縄・日本との関係の変化に注目して—」『アジア遊学』76
- 森幸一(2005b)「現代沖縄文学におけるユタ=シャーマン表象」(In) Anais III Congresso internacional de Estudos Japoneses no Brasil, UnB, 218-289頁
- 森幸一(2006)「ブラジルの日本人と日本語(教育)」『国文学 解釈と鑑賞 特集南米の日本人と日本語』第71巻7号 2006.7 6—47頁 至文堂 東京
- 森幸一(2007a)「グローバル状況下におけるエスニック・シャーマンの生成」303—332頁 (O Surgimento do Xamã Etnico em decorrência da Globalização pp. 274- 302) (in) Mita Chiyoko(ed) *Globalização; Análise Comperensiva a partir da Perspectiva Local e Regional 2007 Sophia Working Papers Series.*
- 森幸一(2007b)「「言語」をめぐる移民史—ブラジル日系人の言語状況に関する民族誌的考察」(In) (編)大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」『インターフェイスの人文学』研究報告書 2004—2006 第6巻言語の接触と混交」2007年 187—272頁
- Koichi Mori(2008)“The Process of “Yellowing” of Traditional Brazilian Religions of Possession – The Religious World of An Okinawan Woman ”(In) Takashi Maeyama(ed) *Latin American Studies* No.16. 2008,177-201.Tokyo.
- Koichi Mori & Bárbara Inagaki(2008)“OS CONCURSOS DE BELEZA NA COMUNIDADE NIPO-BRASILEIRA E A IMAGEM DA MULHER NIKKEI”(In)*Estudos Orientais, No.6.DLO/USP,* pp.131-174.
- Koichi Mori(2008)“ THE STRUCTURE AND AIGNIFICANCE OF THE SPIRITUAL UNIVERSE OF THE OKINAWAN CULT CENTER” (In) *Estudos Orientais, No.6.DLO/USP,* pp.175- 203.
- 山ノ内裕子(2002.3)「『日系ブラジル人』のエスニシティ ブラジル・日本におけるフィールドワークから」『国際教育文化研究』2、九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会：97-107
- 山ノ内裕子(2003.3)「学校における文化と不平等 ブラジル人少女マルシアの事例から」『九州大学大学院教育学研究紀要』5、九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門：207-221
- 山ノ内裕子(2004)「『コロニア』と『デカセギ』 移動の経験におけるエスニシティの形成」『九州人類学会報』31、九州人類学研究会：101-107
- 渡辺雅子(2001)『ブラジル日系新宗教の展開 異文化布教の課題と実践』(現代社会学叢書) 東信堂
- 山東功(2007)「ブラジル日系移民社会と日本語観」(In) (編)大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」『インターフェイスの人文学』研究報告書 2004—2006 第6巻言語の接触と混交」2007年 273—314頁。

- 中東靖恵 (2007) 「ブラジル日系移民社会における言語生活ーブラジル日系人の言語能力意識と意識にかかわる諸要因」 (I n) (編) 大阪大学 21 世紀 COE プログラム 「インターフェイスの人文科学」 『インターフェイスの人文科学』 研究報告書 2004-2006 第 6 巻言語の接触と混交」 2007 年 315-333 頁
- (2006) 「ブラジル日系・近郊農村地域における言語シフトースザノ市福博村における言語使用の世代的推移ー」 (I n) 『文化共生学研究』 4
- (2005) 「ブラジル日系・奥地農村地域における言語シフトーアリアンサ移住地における言語使用の世代的推移ー」 (I n) 『岡山大学文学部紀要』 44
- 工藤真由美 (2007) 「複数の日本語への視点」 (I n)) (編) 大阪大学 21 世紀 COE プログラム 「インターフェイスの人文科学」 『インターフェイスの人文科学』 研究報告書 2004-2006 第 6 巻言語の接触と混交」 2007 年 175-186 頁。
- 半田知雄 (1953) 「ブラジルに於ける日本語の運命」 (I n) 『時代』 15
- (1980) 「ブラジル日系社会における日本語の問題」 (I n) 『言語生活』 346,347,348.
- 永田高志 (1990) 「ブラジル日系社会の日本語言語生活ーパラナ州アサイを例にー」 (I n) 『近畿大学文芸学部論集ー文学・芸術・文化ー』 2・2
- (1991a) 「ブラジル日系人の日本語の特徴ー戦前移民地アサイを例にー」 (I n) 『近畿大学近畿大学文芸学部論集ー文学・芸術・文化ー』 2・3.
- (1991 b) 「ブラジル日系人の言語生活ーアサイ日系社会を例に」 (I n) (編) 国際協力事業団 『移住研究』 28・3
- 野元菊雄 (1969a) 「ブラジル便り」 (I n) 『言語生活』 213,214,215.
- (1969 b) 「ブラジルの日本語」 (I n) 『言語生活』 219
- (1974) 「ブラジルの日本語教育」 (I n) 『日本語教育』 19
- 久山恵 (2000) 「ブラジル日系 1 世の日本語におけるポルトガル語借用ーその形態と運用ー」 (I n) 『社会言語科学』 3・1.
- 鈴木英夫 (1979) 「ブラジル日系社会における外来語」 (I n) 『名古屋大学教養部紀要 A (人文科学・社会科学)』 23.
- (1982) 「ブラジルにおける日本語の変容」 (I n)) 『名古屋大学教養部紀要 A (人文科学・社会科学)』 26

参考文献

- 井ノ上俊介・大山慶子・田口徹也ほか 2001. 海外事情——ブラジルにおける日系高齢者の生活に関する調査研究. 『公衆衛生』 65(8) : 628-633
- 金本伊津子 1998. ブラジル多文化社会における日本人の老い——「憩いの園」の老人たち. 『平安女学院短期大学紀要』 No.29
- 金本伊津子 2007a. 『老いの文化人類学 1 ; 老いのエスニシティ——多文化社会にみる日本移民の老後』 書齋の窓 No.566. 有斐閣.
- 金本伊津子 2007b. 『老いの文化人類学 2 ; 高齢化する海外日系コミュニティ』 書齋の窓 No.567. 有斐閣.
- 金本伊津子 2007c. 『老いの文化人類学 3 ; 老いのナラティブとエスノグラフィ—アメリカ編』 書齋の窓 No.568. 有斐閣. :
- 清谷益次 1998. 証言としての移民短歌——ブラジル日系人の百二十一首とその周辺. 『積乱雲 梶山季之——その軌跡と周辺』 季節社 : 696-767.
- 工藤真由美編著 2007a. 『言語の接触と混交 : ブラジル日系人(沖縄系)言語調査報告』 (CD付)大阪大学 21世紀 COEプログラム「インターフェイスの人文科学」.
- 工藤真由美編著 2007b. (編)大阪大学 21世紀 COEプログラム「インターフェイスの人文科学」 『インターフェイスの人文科学』 研究報告書 2004-2006 「第6巻 言語の接触と混交」
- 熊谷広子 2000. 移住と住宅——ブラジル移民の住まいに見る“日本的なるもの”の変化. 『すまいろん』 53. 住宅総合研究財団 : 50-53.
- 小池洋一 1990. ブラジルにおける日系人の企業者行動——山本勝造とその経営理念. 『アジア経済』 31(1) : 48-60.
- 小嶋 茂 1998. ブラジル日系社会における芸能の伝承と変容——パラナ民俗芸能祭をめぐる一考察. 『イベロアメリカ研究』 21(1). 上智大学イベロアメリカ研究所 : 69-79.
- 斉藤廣志 1959. 移住者と共同組合「文化移植」に関する一考察. 『国際経済研究』 9 : 109-147.
- 斉藤廣志 1960a. ブラジルにおける邦人移住者の地域的移動. 『国際経済研究』 10 : 195-247.
- 鈴木路子・北原隆史・長瀬小夜 1991. 熱帯雨林気候アマゾン地域の小児の発育と環境に関する現地調査——各移住地における日系移住者子弟の発育と現地ブラジル人に視点をおいて. 国際協力事業団編『移住研究』 28 : 1-15.
- 園田恭一・朝倉隆司 1997. ブラジルにおける日系人の生活と健康. 『東洋大学社会学部紀要』 34(3). 東洋大学社会学部 : 5-63.
- 園田恭一・朝倉隆司 1999. 滞日日系ブラジル人の生活と健康. 『東洋大学社会学部紀要』 36(3). 東洋大学社会学部 : 127-154.
- 田中規子 1996. アマゾン熱帯地域における日系共同組合の経営危機とその要因分析——トメアス総合農業協同組合を事例として. 『農経論叢』 52. 北海道大学大学院農学研究科 : 181-191.
- 中東靖恵 and Melo, L. A. de P. 2003. ブラジル日系社会における言語の総合的研究へ向けて(1). 『岡山大学文学部紀要』 39 :

- 中牧弘允 1986. 『新世界の日本宗教 日本の神々と異文明』平凡社.
- 中牧弘允 1998. ブラジルの本門佛立宗——茨木日水の記録を中心に. 本門佛立宗開導百遠韓記念論文集編纂委員会編『佛立開導長長松日扇とその教団(上)』平楽寺書店: 247-288.
- 中山 満 1982. ブラジルにおける沖縄県出身移民の空間移動の地域的指向について. 『琉球大学法文学部紀要』史学・地理学篇 25: 1-55.
- 西川大二郎 1990. サンパウロ州内陸フロンティアにおける農業小生産者の成立過程——プルデンテ市周辺部の「ムラ」を例にとって. 『法政大学教養部紀要』75: 31-74.
- 西川大二郎 1991. 「Y日記」から見たサンパウロ州の日系農業小生産者の二次的集団地「ミネのムラ」の社会経済的性格. 『法政大学教養部紀要』79: 1-21.
- 野口敬子 1990. 上塚司日本高等拓殖学校——アマゾン開拓について. 国際協力事業団編『移住研究』27: 76-86.
- 野元菊雄 1974. ブラジルの日本語教育. 『日本語教育』19
- 半田知雄 1980. ブラジル日系社会における日本語の問題. 『言語生活』346,347,348
- 藤田敏郎 1912. 伯国サンパウロ州巡回報告書. 『移民調査報告』9. 外務省通商局
- 藤村ジャンジーラ 1970. ブラジルにおける日系村落社会の構造とその展開過程——日系農民の生活を中心として. 国際協力事業団編『移住研究』7: 37-51.
- 前山 隆 1978. 適応戦略としての擬制親族——ブラジル日本移民における天理教集団の事例. 『人文科学論集』12. 信州大学人文学部: 39-50.
- 前山 隆 1979. 日系人と日本文化——特に日系ブラジル文化と国家観について. 『海外移住の意義を求めて ブラジル移住 70周年記念シンポジウム』外務省: 202-213.
- 前山 隆 1982a. ブラジルの日系人におけるアイデンティティの変遷. 『ラテンアメリカ研究』4. 筑波大学ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織: 180-219.
- 前山 隆 1982b. 『移民の日本回帰運動』日本放送出版協会.
- 前山 隆 1984a. 「文化変容」についての一族概念——ブラジル日系人における和魂伯才論. 『地域研究』2. 筑波大学地域研究研究科: 43-57.
- 前山 隆 1984b. 適応の論理と心理——ブラジル日系人の母国敗戦時の変動. 『歴史人類』12. 筑波大学歴史人類学系: 127-152.
- 前山 隆 1984d. 『市民 13660 号』(翻訳). 御茶ノ水書房.
- 前山 隆 1986a. 『ハワイの辛抱人』御茶ノ水書房.
- 前山 隆 1986b. ブラジル日系人における分裂と統合エスニシティとアイデンティティの問題. 重松伸司編『現代アジア移民』名古屋大学出版会: 1-32.
- 前山 隆 1986c. 日系農業とコチア産業組合『週刊朝日百科』118. 朝日新聞社: 206-209.
- 前山 隆 1987. 異文化接触と文化変動——ブラジル日系人の事例に照らして. 『文化と哲学』6. 静岡大学哲学会: 1-27.
- 前山 隆 1996a. 『エスニシティとブラジル日系人 文化人類学的研究』御茶ノ水書房.

- 前山 隆 2003. 『個人とエスニシティの文化人類学 理論を目指しながら』
阪南大学叢書 68. 御茶の水書房.
- 馬瀬良雄 1986. ブラジル便り——ブラジル日系人の日本語. 『言語生活』 418.
筑摩書房:
- 松岡秀明 2004. 『ブラジル人と日本宗教 世界救世教の布教と受容』 弘文堂.
- 真鍋次郎 1993. 熱想 44 全ブラジル日系人老人クラブ連合会の歩み. 『月刊
福祉』 76(2). 全国社会福祉協議会: 90-91.
- 三田千代子 1977. 『ブラジル日系人の対日イメージ コミュニケーションと
イメージの変化』 上智大学イベロアメリカ研究所.
- 三田千代子 1978. ブラジルに於ける戦前日本人社会の社会制度と文化目標の
矛盾——勝負抗争の社会的背景. 『ラテンアメリカ論集』 11/12. ラテンア
メリカ政経学会: 38-65.
- 三田千代子 1982. サンパウロ日本人共同体と経済活動. 『イベロアメリカ研
究』 IV(1). 上智大学イベロアメリカ研究所: 42-60.
- 三田千代子 1988. ナショナリズムと民族集団. 『外交時報』 1251: 57-70.
- 三田千代子 1990. 日本とブラジルを結ぶ日系人移住者の 80 年. 『外交時
報』 1265: 41-56.
- 三田千代子 2002. ナショナリズムとエスニシティ・グローバリゼーションと
エスニシティ——バストス日系人のエスニック・アイデンティティの形成と
変化. 柳田利夫編『ラテンアメリカの日系人 国家とエスニシティ』 慶應義
塾大学出版会: 213-248.
- 森 幸一 1991b. ブラジルに於ける日系人の宗教生活と日系宗教. ブラジル
日本移民 80 年史編纂委員会編『ブラジル日本移民 80 年史』 ブラジル日本文
化協会: 417-449.
- 森 幸一 1992. ブラジルからの日系人「出稼ぎ」の推移. 国際協力事業団編
『移住研究』 1992.28 号: 144-163.
- 森 幸一 1993. 日系集団地にとっての「出稼ぎ」のもつ意味——3 日系集団
地の出稼ぎ形態と影響を対比を通じて. 国際協力事業団編『移住研究』
1993.29 号: 40-57.
- 森 幸一 1994. アマゾン地域からの日系人出稼ぎ現象——トメーアスー移住
地の事例を通じて. 国際協力事業団編『移住研究』 1993.30 号: 120-139.
- 森 幸一 1998c. 〈食〉をめぐる移民史(1)——戦前のコロノ・植民地時代.
『人文研』 No2.1998: 48-70.
- 森 幸一 1999c. サンパウロ市における沖縄系エスニック・コミュニティの
生成過程——特に経済的適応プロセスとの関連において. 『人文研』 No.5:
- 森 幸一 2000a. ブラジルにおける沖縄系人のアイデンティティの変遷過程.
『総合産業研究所報告書』 8-4. 2000. 沖縄国際大学
- 森 幸一 2000b. 第 11 章 還流型移住としての《デカセギ》——ブラジルか
らの日系人デカセギの 15 年. 森広正編『国際労働力移動のグローバル化——
外国人定住と政策課題』 法政大学出版会. 2000: 347-376.
- 森 幸一 2000c. 創造される民俗文化——移民への視点. 赤田光男・小松和
彦・福田アジオ他編『講座 日本の民俗学 10 民俗研究の課題』 雄山閣.
2000: 168-194.

- 森 幸一 2000d. サンパウロ市における日本食の受容. 『食の文化誌 Vesta 』2000年夏号. 味の素食の文化センター編: 30-35.
- 森 幸一 2001. 『ブラジルにおける沖縄移民と宗教——文化人類学的研究』東北大学文学部提出博士論文(未完).
- 森 幸一 2002a. 日系人のイメージ——《ジャポネス》範疇に付与された意味と位置. XIENPULLCJ/IEEJ(第11回ブラジル日本研究学会報告書)ブラジリア. 2002: 467-480.
- 森 幸一 2002b. 第五章 ブラジルにおける沖縄系シャーマン「ユタ」の成巫過程とその呪術宗教世界——特にエスニシティとの関連において. 柳田利夫編著『ラテンアメリカの日系人——国家とエスニシティ』慶応大学出版会: 153-212.
- 森 幸一 2003a. ブラジルの琉球芸能と主体の構築——演芸会・コンクール・パレード. 西成彦・原毅彦編著『複数の沖縄——ディスポラから希望へ』2003. 古今書院: 287-300.
- 森 幸一 2003b. 〈ブラジルのウチナーンチュ〉を生きる. 『月刊 オルタ』アジア太平洋資料センター(PARC)編: 15-17.
- 森 幸一 2005a. ブラジル沖縄系人の祖先崇拜の実践——彼等とブラジル・沖縄・日本との関係の変化に注目して. 『アジア遊学』76
- 森 幸一 2005 b. 現代沖縄文学におけるユタ＝シャーマン表象. *Anais III Congresso internacional de Estudos Japoneses no Brasil*. UnB: 218-289.
- 森 幸一 2008a. 『沖縄民俗辞典』(共著)吉川弘文館.
- 森 幸一 2008 c. 『世界の食文化 中南米編』(山本紀夫編著). 農山漁村協会.
- 山下暁美 1998. 日系人の敬語——ブラジルとアメリカ. (平成10年度日本語教育学界発表原稿)
- 山ノ内裕子 2002. 「日系ブラジル人」のエスニシティ——ブラジル・日本におけるフィールドワークから. 『国際教育文化研究』2. 九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会: 97-107.
- 山ノ内裕子 2003. 学校における文化と不平等——ブラジル人少女マルシアの事例から. 『九州大学大学院教育学研究紀要』5. 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門: 207-221.
- 山ノ内裕子 2004a. 「コロニア」と「デカセギ」——移動の経験におけるエスニシティの形成. 『九州人類学会報』31. 九州人類学研究会: 101-107.
- 山ノ内裕子 2004b. 『ブラジル日系人のエスニシティ形成に関する論文』九州大学大学院教育学研究科博士論文(未完).
- 山本勝造他編 1993. 『ブラジル日系人の意識調査 1991-1992』統計推理研究所.
- 渡辺雅子編著 1995. 『共同研究 出稼ぎ日系ブラジル人(上) 論文篇』明石書店.
- Albersheim, U. 1962. *Uma Comunidade Teuto-Brasileira (Jarim)*. Rio de Janeiro. Centro Brasileiro de Pesquisas Educacionais/ MEC.
- Azevedo, T. de. 1975, 1982. *Italianos e Gauchos*. Rio de Janeiro/ Brasilia. Ed.Catêdra. Fundação Nacional Pró-Memórias.
- Borges Pereira, J. B. 1974. *Italianos no Mundo Rural Paulista*. São Paulo. Pioneira/IEB-USP.

- Diegões Junior, M. 1964. *Imigração, Urbanização, Industrialização*. Rio de Janeiro. Centro Brasileiro de Pesquisas Educacionais/ MEC.
- Fausto, B. 1999. *Fazer a América*. São Paulo. EDUSP.
- Hashimoto, F. 1998. *Ventos de Outono: uma Fenomenologia da Maturidade*. São Paulo. Arte e Ciência.
- Lima, M. H. B. de. 1973. *A Missão Herdada: um Estudo sobre a Inserção do Imigrantes Portugueses*. Dissertação de mestrado. Rio de Janeiro. PPGAS. Museu Nacional. UFRJ.
- Maeyama, T. 1979. A Minority Group in an Underdeveloped Nation: The Japanese Case in Brazil. *Studies in Humanities* 13, 信州大学人文学部 : 67-84.
- Maeyama, T. 1983a. Religion, Kinship and Middle Classes of the Japanese in Urban Brazil. *Latin American Studies* 5. Special Research Project on Latin America. The University of Tsukuba: 55-82.
- Maeyama, T. 1983b. Japanese Religions in Southern Brazil: Change and Suncretism. *Latin American Studies* 6: 181-238.
- Maeyama, T. 2007. Asian Latin-American Ethnicity: Guyana, Surinam, Brazil, and Argentine. (In) Maeyama, T. ed. *Latin American Studies* No.16. Tokyo. The Association for Latin American Studies
- Martins, W. 1955, 1989. *Um Brasil Diferente: Ensaio sobre Fenômeno de Aculturação no Paraná*. 2nd. ed. São Paulo. T.A. Queiroz.
- Mita, C. 1978. Shindo-Renmei: A Contradição entre a instituição social e a meta cultural dos japoneses no Brasil. *Anais*, XII (Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros): 22-69.
- Mori, K. 2002. Etnicidade e Criação de uma Cultura Híbrida- O caso dos Imigrantes de Okinawa no Brasil. (In) *XIII Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua, Literatura e Cultura Japonesa*. USP: 99-110.
- Mori, K. 2003a. Migrant network of people from Colônia Okinawa in Bolivia. (In) *Tohoku Psychological Folia* 62: 48-56.
- Mori, K. 2003b. As Condições de Aceitação da Culinária Japonesa na Cidade de São Paulo- Por que os Brasileiros Começaram a Apreciar a Culinária Japonesa. (In) *Estudos Japoneses* No. 23. CEJ/USP: 7-22.
- Mori, K. 2008 b . The Structure and Significance of the Spiritual Universe of the Okinawan Cult Center. (In) *Estudos Orientais*. No.6. DLO/USP: 175- 203.
- Nogueira, A. R. 1971. *Considerações Gerais sobre a Imigração Japonesa para o Estado de São Paulo entre 1908 e 1922*. Plestra proferida a 27/ Nov/ 1971 no Centro de Estudos Nipo-Brasileiros.
- Patarra, N. L. cord. 1995. *Emigração e Imigração Internacionais no Brasil Contemporâneo*. Campinas. FNUAP. 2nd ed.
- Patarra, N. L. cord. 1996. *Migrações Internacionais Herança XX Agenda XXI*. FNUAP.
- Patarra, N. L. 1996. *Migrações Internacionais Herança XX Agenda XXI*. Campinas. FNUAP.
- Rattner, H. 1975. *Tradição e Mudança: a Comunidade Judaica de São Paulo*. São Paulo. Ática.
- Saito, H. 1961. O Japonês no Brasil: Estudo de Mobilidade e Fixação. São Paulo. ed. *Sociologia e Política*:
- Saito, H. 1963. Aculturação de Japoneses no Brasil e no Peru. (In) *Revista do Museu Paulista*. Nova Série 14. São Paulo: 269-276.

- Schiller, N. G., Basch, L., and Szantos-Blanc, C. eds. 1992. *Towards a Transnational Perspective on Migration: Race, Class, Ethnicity and Nationalism Reconsidered*. NY. New York Academy of Science.
- Willems, E. 1949. Assimilation of Japanese Immigrants.
- Willems, E. 1950 Immigrants and Their Assimilation in Brazil. (In) *T. L. Smith and A.marchant* eds. *Brazil Portraits of Half a Continent*. NY. Dryden Press